

外国人の目に映った駅前街路とその評価

九州産業大学大学院工学研究科 学生会員 花田彦
九州産業大学工学部 正会員 山下三平
九州産業大学大学院景観研究センター 正会員 中村直史

1. はじめに

福岡市は、地理的にユーラシア大陸との経済・文化交流の結節点としての性格をもっている。また近年福岡市は東部の香椎地区が、都市再生緊急整備地域に指定され、福岡市副都心計画とともに注目されている。ここはまた、アジア産業交流拠点であるアイランドシティに隣接する地区でもある。今後、香椎地区の発展を考える上で、様々な国の人々の観点を計画に取り入れることが重要と思われる。

そこで本研究では、香椎駅を含む地区の街路を対象とし、留学等で福岡在住の外国人の目を通してこの地区を診断し、街路景観の計画に寄与し得る情報を得ることを目的とする。

2. 方法

(1) 調査方法

調査期間は2003年10月25日（土）～2003年12月25日（木）である。デジタルカメラ（SONY MVC-FD200）を一人に一台貸し出し、それぞれ自由に50枚程度香椎駅周辺を撮影してもらった。また、1枚撮影するごとに、その理由や意見を記録し、さらに撮影時の場所を地図に記入してもらった。

調査対象街路として、香椎駅周辺のセピア通り・みゆき通り・キラキラ通りを選んだ（図-1）。

被験者は、外国人男性9名、女性11名であった。なお比較のため日本人（男性11名）にも同様の手順で調査を行った。

(2) 教示

調査の際に被験者に与えた教示は次の通りである。「調査の方法は、音声収録機能付カメラ、マピカを用いて、香椎駅周辺の写真を1人50枚程度写真に撮影してください。撮影対象は、好きなところ・嫌いなところ・善いところ・悪いところ・綺麗なところ・汚いところ・気に入っているところ・文化の違いを感じたところ・印象的なところ等、何でもかまいません。写真1枚ごとに感想や撮影の理由を配布の用紙に記入してください。撮影時の場所を写真番号で地図に記入してください。また撮影する道順は配布された地図に記載された番号順通りに行ってください」

(3) 分析方法 - コンテント・アナリシス

分析者4名が写真と意見の記録からそれぞれの主対象、評価および、撮影理由を判断して集計を行う。それぞれの意見に不一致がみられたときは、4人で議論し、分類を修正する。

3 結果

撮影された写真は、1432枚である（外国人被験者905枚、日本人被験者527枚）。

外国人被験者の最も撮影頻度が高い主対象は「店舗」の23.2%であり（図-2）、日本人被験者は4.5%と約20%の差がある（図-3）。反対に日本人で最も撮影頻度が高い主対象は「サイン」の13.3%であり、外国人の4.3%と比べ10%程度多い。

被験者の評価の割合は、外国人の場合、肯定意見39.9%、否定意見23.3%、中立的意見36.9%であり、肯定意見の割合が高い。日本人は肯定意見35.7%、否定意見45.7%、中立的意見19.0%であり、否定意見の割合が高い（図-4）。

外国人被験者の否定意見の中で頻度が最も高い主対象物は、「建物（16.1%）」であり、次に「店舗（13.3%）」、「電柱・電線（9.2%）」、「広告（9.2%）」の順である（図-5）。外国人は「建物」や「店舗」の外観

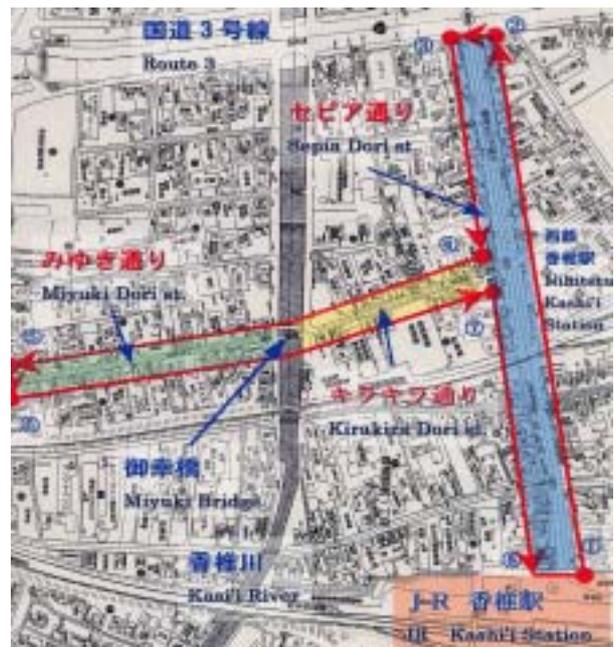


図-1 対象地区の街路と撮影時の進路

キーワード：街路景観、写真投影法、外国人

連絡先：813-8503 福岡市東区松香台2-3-1 (TEL)092-673-5691 (FAX)092-673-5691

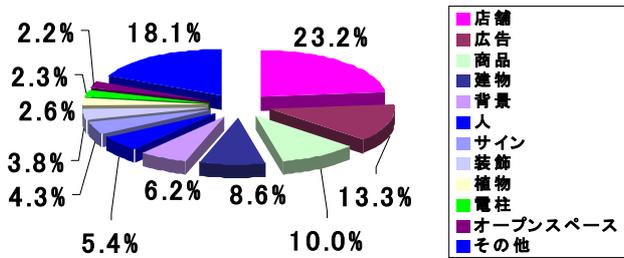


図-2 外国人被験者の撮影主対象 (上位累加80%までの対象のみ表示)

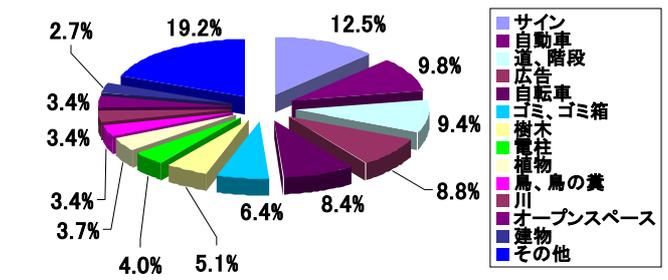


図-6 日本人被験者の否定意見の主対象 (上位累加80%までの対象のみ表示)

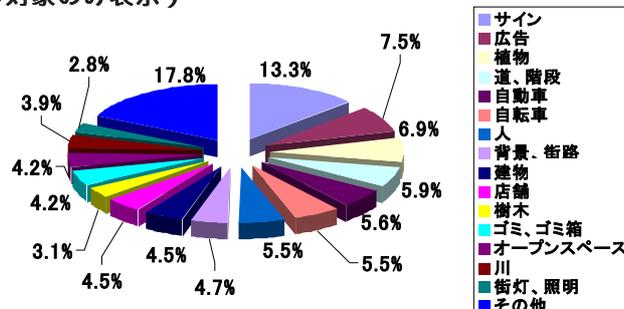


図-3 日本人被験者の撮影主対象 (上位累加80%までの対象のみ表示)

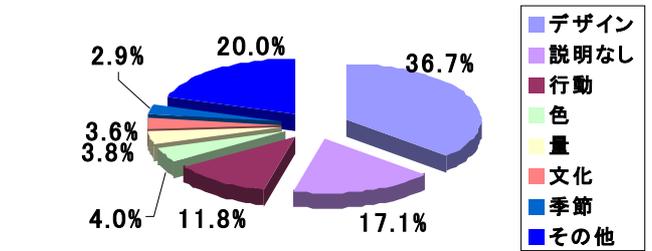


図-7 外国人被験者の撮影理由 (上位累加80%までの対象のみ表示)

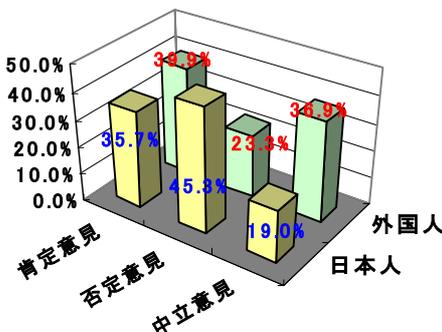


図-4 両被験者の評価の比較

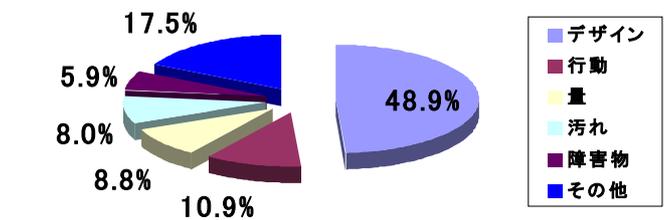


図-8 日本人被験者の撮影理由 (上位累加80%までの対象のみ表示)

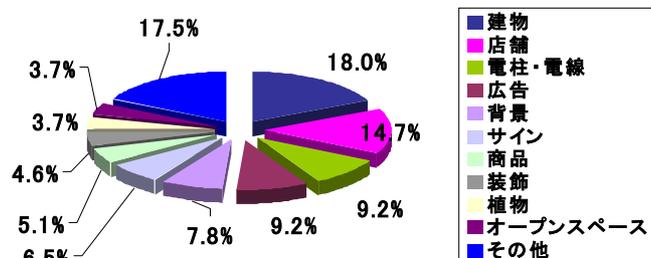


図-5 外国人被験者の否定意見の主対象 (上位累加80%までの対象のみ表示)

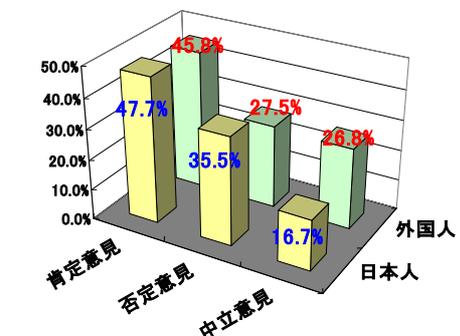


図-9 両被験者のデザインの評価の比較

に対する否定意見の割合が高い。一方、日本人被験者の否定意見の中で頻度が最も高い主対象物は「サイン(12.5%)」であり、次に「自動車(9.8%)」、「道(9.4%)」、「広告(8.8%)」の順である(図-6)。日本人は「サイン」や「自動車」など、香椎の交通問題に対しての否定意見の割合が高いことがわかる。

両被験者とも「デザイン」を撮影理由にした写真が多い(図-7と8)。この理由に伴う外国人被験者の肯定意見は45.8%、否定意見は19.0%、中立意見は35.2%である(図-4)。一方、日本人被験者は肯定意見が47.7%、否定意見が35.5%、中立意見が16.7%である。このように「デザイン」に関する否定意見は総じて

少ないことがわかる。

4. おわりに

以上のようにJR香椎駅周辺は、外国人被験者には比較的よい印象を、日本人被験者には比較的わるい印象をもたれていることがわかった。この地区の今後の潜在的発展性が示唆される。また外国人の目をより重視するならば、交通機能よりむしろ商業施設・建物の改善を優先すべきと考えられる。

謝辞：本研究は文部科学省学術フロンティア推進事業「人間-環境系としての景観プロセスに関する学際的研究」(平成15～19年)による助成を得て行われたものである。ここに謝意を表す。